

2021年度 事業計画

(2021年1月1日より12月31日まで)

事業運営の基本方針

建築を含めた文化全般に対する世間の興味と関心を高め、建築文化の発展に貢献することを目的とし、4つのカテゴリの中から展覧会を企画する。ギャラリーでの展覧会会期中に、シンポジウム、講演会、ワークショップ等を開催するとともに、他の公益法人、機関等とも連携し、広範にわたり情報文化発信を行う。

1. 公益目的事業

(1) 展示事業 (定款 第4条第1号～第3号)

① 建築文化及び関連する支援活動

ア 樹の一脚展 人の営みと森の再生

内 容 30人の作家が地域材を使用して椅子を製作し、展示を行う。素材となる木は、神戸の六甲山と、埼玉県の西部 三富(さんとめ)地域の雑木林から伐採された地域材。地域材は、種類も雑多で、数量も限られているため、木材としての流通経路がなく、多くの木材が間伐材として有効活用されつつも、その価値が見直される道の模索が続いている。本展は、六甲山材を使用した15名と、三富材を使用した15名によって製作された椅子30脚を展示する。展示された椅子は、触って座ることが出来、作家のデザインコンセプトから制作の過程を知ることが出来る。また、会期中には実際に樹を削るワークショップを開催する。樹に触れ、作り手の思いを知ること、モノづくりの楽しさを知り、作り手と使い手が繋がるきっかけとなる展示を行う。

期 間 2021年2月5日から2021年3月31日まで

方 法 30人の作家による地域材を活用した30脚の椅子作品、作り手のプロフィールパネル、六甲山や三富地域のリサーチ資料、地域材の循環のしくみを記録したドキュメンタリー映像を展示する。

イ オリガミ・アーキテクチャー 一枚の紙から近現代建築を折る展

内 容 折り紙建築は、建築学者の茶谷正洋(ちゃたにまさひろ、1934-2008、元東京工業大学名誉教授)氏が1981年から始めたもの。一枚の紙に切り込みをいれ、折り、立体の建築を再現する。日本の伝統的な折り紙や折りたたむ文化の影響も受け、とても繊細で、しかし、大胆な現代的な工芸である。はがき大からA2を二つ折りしたサイズまでの折り紙建築は、見る人にその繊細さと同時に、建築の写しの手法の面白さを伝え、建築そのものに対する愛着を伝える。近年、日本のみならず、世界中で近現代建築の保存再生へのムーブメントが起こる中、専門家だけでなく一般市民へと、建築への興味をすそ野を広げる動機づけとなる展覧会とする。

期 間 2021年4月9日から2021年6月3日まで

方 法 はがき大～A2二つ折りサイズの折り紙建築(約100点)を展示し、パネルで各折り紙建築について、写真、専門家による建築解説、折り紙建築家のひとことを日本語、英語で紹介。また折り紙建築史、折り紙建築の技法についても解説を加え、来場者が体験できるハンズオンを設ける。

ウ 大工道具館「唐招提寺金堂」展

内 容 千二百年以上の歴史を持つ国宝・唐招提寺金堂は、その堂々たる風格と穏やかな造形美から人々を魅了し続けてきました。本展では、近年実施された修理工事から明らかになった木材、彩色、構造などの知見をもとに、古代の匠がどのように建築を捉え、千年も残る建築を築き上げていったのかを、古材や模型や映像などの建築資料を一堂に集めて紹介する。

期 間 2021年8月17日から2021年10月7日まで
方 法 唐招提寺の解体古材を展示し、平成の解体修理（2009年竣工）にて得た知見により、倒壊の危機にあった古代建築を現代の技術でいかにして再生したのか？その手法について紹介し、また、金堂内部の彩色復元模型（原寸大）とVR映像により、古代の鮮やかな空間を再現する展示。

② 教育普及活動展

エ 石川直樹写真展「暗い部屋から・2020 東京」（仮）

内 容 世界各地を旅しながら、人類学や民俗学の視点を取り入れた写真世界を展開してきた石川直樹。石川の写真からは、新しい国境のない地球の姿を浮かび上がらせる。コロナ禍で地球は繋がっているということを実感した2020年。石川は東京に留まり暗い部屋の片隅から世界を見ていた。氏の視界を通して、世界と私たちが、どこにいるのかを見つめてみたい。

期 間 2021年12月10日から2022年2月3日まで
方 法 コロナ禍での石川自身の部屋を遮光シートなどで真っ暗にして室内を「カメラオブスキュラ」にした新作『暗い部屋にて』ほか、都市開発でスクラップアンドビルドを繰り返す都会の様子などを表現する。

③ 時代を反映したトピックス展

オ 歩くー走るー跳ぶ 義足で取り払われた心の壁

内 容 義足という道具を日々使いこなし、時には走り、跳んで躍動する彼らの背中を、どういった技術や人々が支えているのか。今日に至るまでの歴史を参照しつつ、現在の義足をとりまくデータやイメージの転換、さらにこれからの義足の姿を探る。暮らしを支える道具の発展は、人々に新しい扉を開き、いつの時代も未来予想図を描いてきた。このことは健常者、障がい者、いづれに対しても同様である。パラリンピックと義足スポーツを手掛かりに、障がいを持つ人のスポーツ活動や日常生活を支える道具と、それを利用して生活する人々、その周りの多くの関係者に注目し、ダイバーシティを前提とした共生社会について考える展示とする。

期 間 2021年6月11日から2021年8月5日まで
方 法 義肢装具士によって一人ひとりの患者に義足が製作され、利用されるまでの過程や、日常用/スポーツ用義足の実物を展示。日本の義足の歴史を資料とともに紹介し、最新のスポーツ用義足やコンピュータ制御義足などの技術を通して将来の義足までを視野に入れる。

④ 現代アート展

カ GALLERY A⁴ 15年ーその先へー 展

内 容 ギャラリーエークウッド開館から15年の節目に、これまでの展覧会の記録映像アーカイブを公開する。ギャラリーエークウッドのこれまでの歩みを振り返り、関係者、来場者へ改めて感謝するとともに、この先を展望するための企画である。

期 間 2020年12月18日から2021年1月29日まで
方 法 過去のパンフレットや映像を、世界の名作椅子に座ってゆったりと閲覧できるライブラリー空間を展示。2015年から2020年までのギャラリーの活動を記録した記念冊子を発行し、来場者へ配布。森山開次によるダンスパフォーマンスをコロナ感染症対策の為、人数を限定して開催し、その記録映像を会場で公開。新しい暮らし方について考える対談シリーズをスタートし、5年にわたり毎年1本ずつ映像を配信する。

(2) シンポジウム・ワークショップ (定款 第4条第4号)

文化及び芸術に関するシンポジウム、セミナー等の企画、誘致及び開催

コロナ感染症対策の為、2021年度はア～カの展示会関係以外は計画しないが、新たな形を研究する期間とする。

(3) 巡回展・アウトリーチ (定款 第4条第7号)

この財団の目的を達成するために必要な事業

ア アイノとアルヴァ 二人のアアルト フィンランド 建築・デザインの神話」巡回展
内 容 この展覧会はアイノとアルヴァという二人のアアルトが、パートナーとして世界的建築家への道を歩み始めた1942年から、アイノが他界する1949年までの25年間という時をみつめる巡回展。

場 所 【東京展】世田谷美術館
2021年3月20日～2021年6月20日
【神戸展】兵庫県立美術館
2021年7月3日～2021年8月29日

イ 裏磐梯高原ホテル企画1 オリガミ・アーキテクチャー

一枚の紙から近現代建築を折る展 (仮)

内 容 東京で開催後巡回展示予定。はがき大からA2を二つ折りしたサイズまでの折り紙建築は、見る人にその繊細さと同時に、建築の写しの手法の面白さを伝え、建築そのものに対する愛着を伝える。折り紙ワークショップ等も検討予定。

期 間 未定
場 所 裏磐梯高原ホテル

ウ 裏磐梯高原ホテル 企画2「樹の一脚展 人の営みと森の再生」(仮)

内 容 東京で開催後巡回予定。地域材、間伐材を使用して制作した椅子の紹介によって、作り手の思いやモノづくりの楽しさを伝える。

期 間 未定
場 所 裏磐梯高原ホテル

(4) 芸術文化活動拠点提供 (定款 第4条第5号)

建築及び芸術文化の表現活動拠点の提供

ア 東京都建築士会 「住宅課題賞」企画展

内 容 関東エリアの建築学部の卒業制作の優秀作品の展示

期 間 2021年10月25日から2021年11月12日まで

方 法 資料展示、パネルと模型資料による解説。公開審査による講評会を行う。

(5) 調査研究及び資料収集 (定款 第4条第6号)

建築文化に関する調査研究及び資料収集

ア 過年度展示事業のアーカイブ化及び後年度展示事業の調査研究

内 容 過去の活動記録の整備次年度以降の展示事業について調査研究をする。

期 間 2021年1月1日から2021年12月31日まで

イ 企画・出版・教育・広報事業の調査研究

内 容 企画コンテンツの出版化について調査研究をする。

期 間 2021年1月1日から2021年12月31日まで

3. 法人の管理運営

①内部統制システムの整備推進

②長期将来ビジョン構想の推進

以上